

秋田の男たちが、車を語る。今回はホンダN360(改造版)。この車は実はとてもFunkyなのである。どこがFunkyなのか? 2年半の歳月をかけて内装は本革仕様に、ハンドルやシフトノブ等は黄色で統一するなど様々な部分に自分なりのこだわりを持って仕上げている。



ホンダN360(以下はNに省略)は、1967年(昭和42年)3月に発売された。当時、バイクメーカーだったホンダを、本格的な4輪メーカーに成長させた車がNだと私は思っている。当時の軽自動車の規定は、長さ3M、幅1.3M、排気量360以下の4人乗り。Nが発売される前まで、軽自動車は大人4人が満足に乗れなかつたりと、走りの魅力に欠けていた。そんなときに発売されたNは、他の軽自動車よりも抜群に性能が良く、しかも低価格。多くの国民に支持され、爆発的に売れた。ホンダは軽自動車販売台数ナンバーワン記録連続44ヶ月を達成した。

しかし、現在の水準から見れば、Nもとんでも無く非力で、家族4人で乗ると、登り坂1キロ手前からフルスロットルで加速してないと、坂の途中で失速ギアダウンをしなければならぬ。そうになると、いくらアクセルを踏んでも全く加速せず、大量の後続車を貯める事になるのだ。

N360に合わせてステッカーも気が遣われている



リアランプ周りも個人輸入で入手した物に換えられ、燃料キャブは航空機用の物が使われている



現代の車なら、室内温度を設定してオートエアコンを入れておけば、春夏秋冬に関わらず快適にドライブ出来るが、それは全てに良い事なのだろうか?

現代の車で普通に出来る事が、何も出来ないNではあるが、そんなNが私は大好きだ。

Nの室内は、肩が触れあうくらいに狭いので、家族との会話がとてと近く心地良い。坂道が見えたら、手前から加速させるためエンジン音が急に大きくなるので、家族にも坂道が近い事が判る。現代の車には、とても小さな坂でも、Nは一生懸命に登る。

「頑張れ、頑張れ」って、坂を登っている間は、私も家族も一緒にNを応援する。坂の手前から上手く加速出来て坂を登りきると、家族と顔を見合わせて「やったね」。

とても小さな事かも知れないが、Nには家族をひとつにする不思議な力がある様だ……。

川上和徳

オーナーの希望でドア以外は全てカスタム化されている